

第一章

秋葉区の概要



AKIHA
S U M U
P R O J E C T

アキハスム
プロジェクト



1 地勢

新潟市の南東部に位置している秋葉区は、北は新潟市江南区に、東は阿賀野市に、南は五泉市、田上町に、西は新潟市南区に隣接しています。

秋葉区は、新潟市8区の中で西蒲区、北区、南区に次ぐ面積(95.38km²:令和4(2022)年)で、全市域の約13%を占めています。



秋葉山から市街地を望む

2 歴史

現在の秋葉区は、中世「^{かなづのほ}金津保」という公領の範囲内でした。江戸時代になると、新発田藩・村上藩などに支配され、新田開発が進みます。また、能代川(現・新津川)沿いの新津と信濃川沿いの小須戸は、船着き場から六斎市が開かれる在郷町へと発展しました。明治12(1879)年、新津には中蒲原郡の郡役所が置かれました。

町村合併によって、現在の秋葉区は明治34(1901)年までに新津・小須戸の2町と6村になりました。阿賀浦村・満日村・荻川村と合併した新津町は、昭和26(1951)年に新津市となり、30年に金津村・小合村、32年に新関村と合併しました。平成17(2005)年に新津市と小須戸町は新潟市と合併し、19年の政令指定都市移行に伴い、旧新津市と旧小須戸町の区域が「秋葉区」となりました。

<里山と遺跡>

信濃川と阿賀野川に挟まれたにいつ丘陵は、古くから里山として人々の生活と深くつながっていました。丘陵には狩猟に使われた約2万年前の石器が点々と残され、新潟市域でも最も古い人々の営みの痕跡となっています。

秋葉区内の遺跡で最も有名なのが、国史跡「古津八幡山遺跡」です。今から2000年ほど前(弥生時代後期)、丘陵の上に濠をめぐらせた高地性集落が営まれました。また、今から1600年ほど前には、直径60メートルと県内最大規模の円墳が築かれます。奈良・平安時代には製鉄も行われていました。



古津八幡山遺跡

「古津八幡山遺跡」は復元整備され、時代の移り変わりや東北・北陸など他地域との交流の様子などをうかがい知ることができます。

<日本一だった新津油田>

668年、「燃ゆる土と燃ゆる水」を都へ献上したと『日本書紀』に記される越の国(新潟県)。その中でも、にいつ丘陵では古くから原油や天然アスファルトが産出していました。江戸時代には真柄仁兵衛が新発田藩の許可を得て、原油の採掘を始めます。明治時代以降、新しい技術が次々と導入されることで、新津油田の産油量は飛躍的に増大し、日本を代表する油田となりました。



新津油田金津鉞場跡

新津油田での原油採掘は平成8(1996)年に終了しました。国史跡「新津油田金津鉞場跡」にあるやぐらやポンピングパワーなどの遺構は、原油を採掘して水分を切り、製油所へ送り出すまでのシステムとして、それぞれがつながり合って機能していたことを物語っています。その金津鉞場を開発した中野貴一の邸宅(中野邸記念館)は、「日本の石油王」とも称された繁栄ぶりを今に伝えています。

<花とみどりの秋葉区>

秋葉区のうち、信濃川に近い地域では江戸時代から花き・花木や果樹の栽培が盛んに行われていました。古田にある県天然記念物「八珍柿原木」は、推定樹齢300年で「おけさ柿」や「庄内柿」のルーツです。また、大正8（1919）年には、小田喜平太が日本で初めて商業用の大規模なチューリップの球根栽培を始めました。新潟市はチューリップの一大産地となり、チューリップは新潟市の市花に制定されています。



アザレア

区内には新潟県立植物園をはじめ、花き園芸に関する施設が多くあります。新潟市が日本一の生産量を誇るアザレア・ボケや、クリスマスローズなど色鮮やかな花々がまちの四季を彩っています。

<鉄道のまち新津>

「西の米原、東の新津」とも称される「鉄道のまち新津」。その歩みは、明治30（1897）年の北越鉄道（現・信越本線）開通から始まります。新津駅・矢代田駅は、その中間駅として開業しました。その後、岩越線（現・磐越西線）や新発田線（現・羽越本線）が開業します。3路線が乗り入れる日本海側の鉄道輸送の要衝となった新津には、機関区（現・JR東日本新津運輸区）や国鉄の工場（現・株式会社総合車両製作所新津事業所）が置かれました。現在、秋葉区内には7つの駅があります。

また、平成11（1999）年には、新津第一小学校の校庭で保存されていた蒸気機関車「C57-180」が地元の要望によって復活し、「SLばんえつ物語」として磐越西線で定期運行しています。



SLばんえつ物語



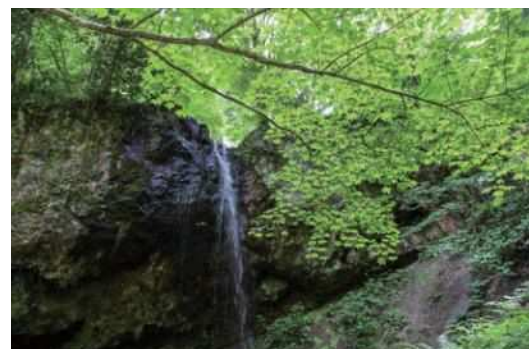
旧新津機関区

3 自然

秋葉区は、東に阿賀野川、西に信濃川、北には小阿賀野川、区の中央には能代川・新津川が流れ、南にはにいつ丘陵が広がる自然豊かな区です。

広大なにいつ丘陵には、いくつもの公園や遊歩道が整備されており、四季折々に森林浴やバードウォッチングなど市民の憩いの場として親しまれています。

特に秋葉公園は、にいつ丘陵の中でも代表的な公園です。眺望のきく丘陵地を生かして、休憩場所、展望台、アスレチック、運動広場、動植物観察、キャンプ場など野外活動のための魅力的な施設がたくさんあり、これらは遊歩道などによって結ばれ、広い範囲を自由に散策できるようになっています。



白玉の滝

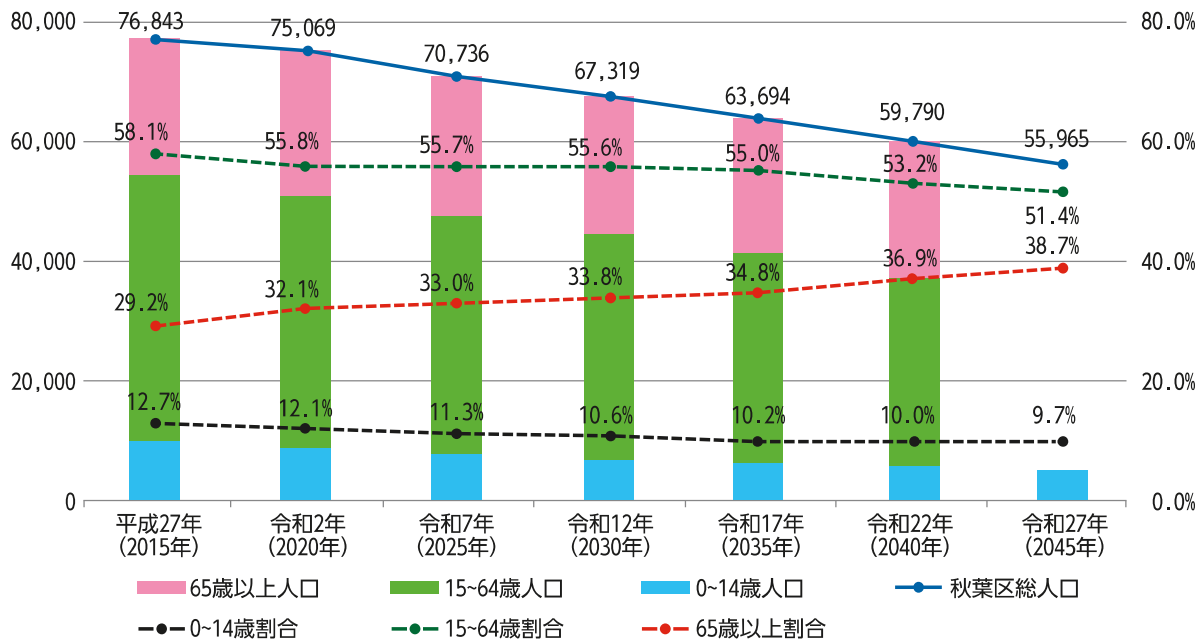
4 人口

令和4年(2022)年3月末現在の秋葉区の人口(住民基本台帳人口)は、75,642人です。秋葉区は、8区の中で4番目の人口規模で、65歳以上の老年人口は24,408人。高齢化率が32.1%と高くなっています。

平成22年の国勢調査の結果を基準として将来の人口を推計すると、令和7年(2025年)には約73,000人、令和17年(2035年)には約68,000人と約1万人の減少が見込まれ、その内、年少人口・生産年齢人口が減少し続けると見込まれています。

(人)

人口ビジョンのベース推計を基にした区別将来推計人口



※推計値は5歳階級毎に按分計算し積み上げているため、年齢3区分の人口と区全体の人口が合わない場合があります。

5 土地利用

用途別の土地利用面積割合では、田畑と山林で6割以上を占めています。人口密度は新潟市8区の中で高い方から4番目(952人)で、全市の人口密度(1,073人)よりも低くなっています。

6 交通

国道403号が南北に、国道460号が東西に通っているほか、新潟と福島を結ぶ磐越自動車道の新津インターチェンジ、新津西スマートインターチェンジがあります。

鉄道は、区内に7つの駅が設置されており、新津駅ではJR信越本線、羽越本線と磐越西線が交わっています。磐越西線を走る「SLばんえつ物語」が、4月～11月の週末を中心に運行しています。



区バス

バスは新津駅を中心に市中心部、南区や五泉市方面などへ運行され、区民の足として、秋葉区・区バスを運行しています。